

今月
秀句

死の商人爆買いさせて丸々と
トランプに花マルもらおう武器漁り
目下宏
中野林

安倍・日本会議
VS 皇室

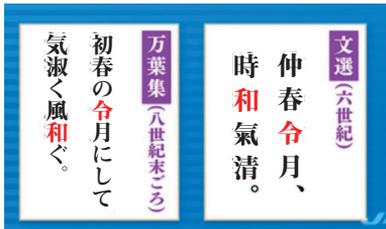


皇室と政権の確執

改憲をもくろみ、新元号に「安」を入れ、出典も日本古典から、と考える日本会議と安倍総理。元号制定委員に日本会議のメンバーを入れたとも伝えられ、「総理を嫌う」皇室との確執がきわだつていた。この結果、万葉集からとられたという「令和」だが、万葉集より百年以上前にその元となる文献『文選』が中国にあった。JNNが報じた。



発表する菅宣房長官
(4月1日)



8世紀末↑ 『万葉集』
『文選』 6世紀↑
JNN ニュースより

来年度予算が史上初 100兆円を超えた。海を渡ってトランプ詣での爆買。軍事費が過去最高の5兆2574億円。支払う財布は国民から。丸々たる死の商人が闊歩する。(周)

例会案内

4月例会 4月25日(木)
投稿締切 21日(日)
課題「令」 3句以内
自由吟 5句以内
自選句、自解筆もぜひよろしく。

目次

川柳互選	2
課題吟「丸」	2
自由吟	2
自選一連作	4
ほのぼの川柳	6
おたより	6
プロレタリア文学運動の盲点⑥	8
百人余の従軍作家たち	12
現代の落首 大嘗祭考(終り)	13
シベリア抑留の記録⑥	16
故・秋山茂氏の手記	13
報告・後記	16

3月の 川柳互選

◆課題吟「丸」

(互選) 一人3句以内吐

- | | |
|--|-----|
| ニンジンで丸め込まれた憐れあり | 未知子 |
| 1 生徒たちシールを貼って指で丸 | 一角 |
| 1 日の丸の樽に違法なバイト漬け | 亀公子 |
| 1 「安倍の丸」「トランプ丸」と道連れにしたい | 和子 |
| 1 医科大の合格点はゲタで丸 | 一角 |
| 1 丸木舟バランス取れず沈む列島 | 立東爺 |
| 1 安倍政権下駄を履いても丸遠く | 白眞弓 |
| 2 安倍は○「他 <small>まる</small> より良きさそう」どこが良い | 広助 |
| 2 若者は丸より角が似合います | 未知子 |
| 2 デフレから脱けだしたとはウソの丸 | 一角 |
| 3 反戦で一丸となれ野党たち | 徹乗 |
| 2 宇宙みる 地球の星は 壊れそう | 広助 |
| 2 飽食の世は過ぎ去りし丸い月 | 立東爺 |

- | | |
|--------------------|-----|
| 2 「安倍の丸」針路変更緊急に | 和子 |
| 3 日の丸を血で染めたいと脱防衛 | 白眞弓 |
| 3 塹壕で涙を拭いた日章旗 | 立東爺 |
| 4 プーチンとトランプに言い丸められ | 徹乗 |
| 4 五輪だぞ 日の丸君が代 でかい顔 | 広助 |
| 4 日の丸が焼き捨てられる向こう岸 | 亀公子 |
| 4 日本丸 右へ右へと 戦前に | 宏 |
| 5 飢えた国丸々とした委員長 | 徹乗 |
| 5 丸腰の九条嫌う右の者 | 林 |
| 5 銃口を覗け九条丸裸 | 亀公子 |
| 6 プーチンに丸め込まれる戯け者 | 林 |
| 7 トランプに花マルもらう武器漁り | 林 |
| 7 死の商人 爆買いさせて 丸々と | 宏 |

◆自由吟 (互選)

一人5句以内吐

- | | |
|------------------|-----|
| うたで安倍を倒したい | 和子 |
| アベ殿にしなやか脳味噌あったなら | 未知子 |

- 4 この五輪 ウソとワイロで 地に墜ちし 宏
 4 非正規を増やして胸張る「サギ景気」 林
 4 孤独死に復興五輪の名が泣いて 林
 4 一斉に値上げひしめく春狂乱 亀公子
 4 五輪旗に巨悪マネーがへばり付く 亀公子
 5 沖繩に寄り添いますと埋める土砂 広助
 5 買収をした五輪で復興忘れられ 徹乗
 5 赤土に辺野古ブルーは負けてない 白眞弓
 5 アベノミクス詐欺あと何回騙せるか 徹乗
 5 もう一回破裂するまで再稼働 徹乗

姉を送る 白眞弓

丸き月姉を伴い沈みゆく
 月のない砂漠にポツン姉亡き日
 黄に咲いて姉を見送る野辺の花
 花筏浮かばぬうちに渉る姉

今月の
自選・連作

◆自選句 前田大峰

サンゴジュゴン辺野古の海で狂い死ぬ
 天災人災丸い地球が欠けてきた
 仮想敵アジアすべてをリストにし
 兵器爆買いノーベル賞もプレゼント
 民主党割れた中味がどす黒い
 平成は九条にドロを塗りまくり
 日の丸担いで走るなさけなさ
 消費税ポイント付ける馬鹿らしさ

◆自選句 中野林

杭打てば未来永劫悔い残す
 辺野古にてダンプで引いてる平行線
 軟弱の地盤がやめると声を上げ

三権を鷲掴みにするアベ独裁
草の根に改憲策を無理強いす
物言えぬ世へと誘う御用記者
首相の使う日本語意味不明

◆ 自選句 岩佐ダン吉

「丸」

莫山の丸だと急に言われても
人柄は丸いが少し頼りない
夕陽見る汗の一日二重丸

「自由句」

思うことあり春の空にただ青い
何度かのトラブルやって見えるもの
現実論急にあなたがしやしやり出る
多数派の中で光っているひとり
手を上げる空気などとは言わさない
ぼんやりとしてたら核に殺される

◆ 闘病川柳 白眞弓

今回は、たまたま自由律俳句の夭逝した住宅謙信すみたたくけんしんの劇映画『ずぶぬれて犬ころ』を観た帰りに、なんとなく自由律川柳を作ってみたくなり、闘病川柳で作ってみました。不定形は定型をマスターしてからといつも言われているのですが、でも作ってみました。どうぞお笑ってください。

洗面台の抜け毛2本にあいさつ

腫瘍だって元気になりたいと言う午後

かき分けてかき分けて腫瘍渋谷行く

筒に入り我が内面を暴くCTという文明

【参考・住宅謙信すみたたくけんしん】自由律俳句の尾崎放哉に

心酔して俳句の世界に入る。生涯に残した俳句

は二八一句。一九八七年二十五歳で夭逝した。

・ずぶぬれて犬ころ

・春風の重い扉だ

・淋しい犬の犬らしく尾をふる

おた り よ

◆ 石上元旦さんより

(川口市) 《電話にて》

私の父が戦後直ぐに発行された「人民川柳」に参加していました。父が「人民川柳」に初めて鶴彬を紹介しました。「人民川柳」は国立国会図書館にあります。ご存知ですか？ 父からその話を聞いていました。私は次男で80歳になります。岡田一杜さん

◆ ほのぼの川柳 《投句歓迎》

わが家族 二気なによりありがとう

神田 鯛

目覚ましが鳴っても爆睡 大物だ

神田 鯛

桜木も元号発表視て開く

真人 我

寒戻り早く見たいな桜花

真人 我

味噌汁に仏が入る 田舎味

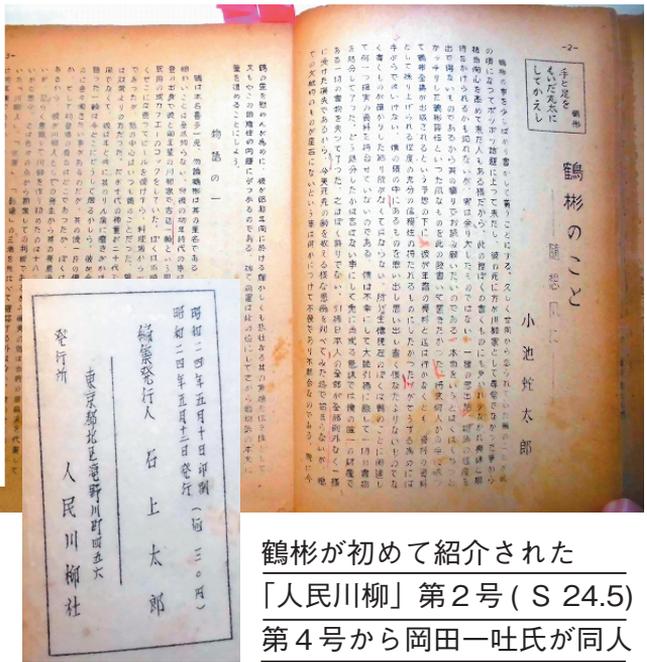
ひろ

法事で白峰に行きました。食事に出た味噌汁が絶品。ダシを訊ねたら「ダシは使っていない。仏さんが入っているから」と。

など、鶴彬を伝えた人たちは日本の財産です。「和」は新しくなって、幅が広がり素晴らしくなりましたね。読み応えがあります。ぜひ金沢、高松を訪ねたい。

《電話を受けて 立東爺》

「川口市の石上です。」と電話がかかり、冒頭「クヒンの…」と言われ、これがツルアキラと分かるまで間ができました(笑) 「人民川柳」は岡田一杜さんが全巻お持ちで高松の鶴彬資料館に納められていることをお伝えしました。大変感謝されました。6改めて「人民川柳」を確認すると、編集発行人・石上太郎とありました。創刊は昭和二四年五月。鶴彬についての文章は第2号に「鶴彬のこと——随想風に」と小池蛇太郎の署名。石上太郎氏のペンネームだと思われます。この文章は鶴彬を世に紹介した初めてのものです。次号には文字にして「和」に掲載したいと思っています。「人民川柳」はざら紙でガリ版印刷。文字も不鮮明で変色が進み、触ると紙の周辺がボロボロ崩れる状態になっています。「鶴彬



↑「人民川柳」創刊号
編集発行人：石上 太郎
発行所：人民川柳社

鶴彬が初めて紹介された
「人民川柳」第2号 (S 24.5)
第4号から岡田一吐氏が同人
として参加している。

を顕彰する会」の寺内徹乗さん（「和」同人）が研究資料用に画像にされました。

◆和川柳社との出会い

二つのラッキー！ 日下 宏

①「永田町 釣べ落としの 秘密法 宏作(当時67歳)

この句が全日本年金者組合しんぶん文芸の「13年の年間優秀作の末席に選んでくださったのが当時の岡田一杜先生で、即、投稿先事務局へ「先生」宛へのお礼と私信を認め送付しました。(14年1月号の7第289掲載)

14年2月に「和川柳社」の会報(1、2月号)と別紙用箋で時々ロシア文学、特にトルストイ、ドストエフスキー、シェークスピア、種の起源のダーウイン、仏のルツソー、別な月には唯物史観として「経済学批判」、レーニンの「帝国主義論」、日本文学では、漱石、鴉外等の書に再度接してみても……、いわば一般教養の裾野を広げて社会、人間、自然への

一定の視座の大切さを岡田先生に暗示されたと感じ
ております。(すべては読んでいませんが、視座を
持ちつつ喜怒哀楽など時々ヒューモアも入れるのも
川柳ですよと教えられました。

特に鶴彬さんの「暁を抱いて闇にゐる蕾」の句も
自分は知りませんでした。岡田先生からは3月〜半
年会費は要らないから気に入ったら自由に投函して
よろしいと言われ、それから半年後、会費を払い会
員のひとりにさせてもらいました。

岡田先生(他界) ↓ 岩原先生 ↓ 現在の渡辺様を
はじめ会員一人ひとりの句会(句報)の交流・刺激
のおかげで②「兜太逝く 平和希求は 永遠に」(宏
72歳作)が一八年しんぶん年間優秀作(川端一步先
生選者)の一つとなりました。

川柳をはじめて七年目ですが、これからも体調(透
析と難病の全身性アミロイドーシス症・タンパク質
が内臓血管に付着する疾病)と相談しながら、マイ
ペースで句報を通じ、これからも交流させていただ

ければ望外の喜びです。

皆さまお身体に気をつけられて。

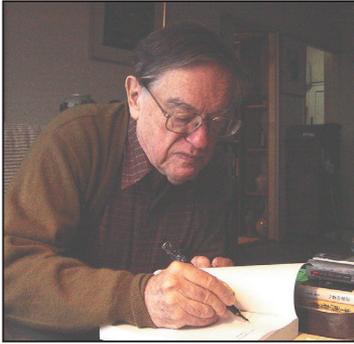
敬具

◆投稿 岩原一角

毎週、金曜日の夜1時間、全国でも動きに呼応し
て、金沢駅前のもてなしドームで「どいね原発」と
いうスタンディングに参加している。通りすがり
の高校生もだんだんなじみになってきて、シールを
貼ってくれる若者が10人ほどだろうか。

廃炉の日迎えるまではシール言い 一角

このシールアンケートというのは、署名と違い多
くの若い方が通りすがりに貼ってくれるから、やり
がいがある。というか、かつて、生協で婦人会の方
たちが参加してきた折りに、例えば添加物規制の署
名活動を呼び掛けても足がすくむので、シールアン
ケートを作り出して、敷居を低くして参加をよびか
けた。それが今、高校生にシール貼りを呼び掛けて、
応えてくれている。



ドナルド・キーン氏
(by Wikipedia)

の興味で日本研究に入つたという。自伝で「もし、一九四一年十二月に太平洋戦争が起こつていなたとしたら、私が自分の一生を日本文学

今年二月二四日、ドナルド・キーン氏が亡くなった。アメリカ出身の日本文化・文学研究の第一人者。東日本大震災を契機に日本国籍を取得、カタカナ表記の「キーン・ドナルド」へと改めた。通称（雅号）は鬼怒鳴門（きーん・どなるど）。

二〇歳の時読んだ英訳「源氏物語」と「漢字」へ

プロレタリア文学運動の盲点 ⑥

百人余の従軍作家たち

周 立東 爺

研究という仕事に捧げたとは思えない」と書いているようにドナルド・キーン氏は戦争と深いかわりを持つている。

日米開戦で情報士官、日本語の通訳官として日本情勢の分析、アツツ島の玉砕の場において戦争の悲惨さも体験し、日本人捕虜の訊問にあたる。氏の論文「日本の作家と大東亜戦争」で、次のように書いている。

「戦争中のことをいいつくろうとする日本人が時につくりだした意見とは反対に、作家たちは戦争勃発の際、ほとんど一致して軍国主義者の背後に立った。彼らは、緒戦の勝利を誇り、戦勢が傾きはじめたときは努力を倍加するよう力説した。敗戦が迫ってきたときにのみ、若干の作家は意気を沮喪そそうさせたが、他のものは、さらに自己を鞭打つて狂熱的な愛国主義に走った。少数の作家の消極的行動以外には軍国主義に対する抵抗はなく、消極的に行動をした人も、主としては発表をさしひ

かえた年輩者であった。」

前号までに紹介した、火野葦平など従軍作家は総勢百名を越える。当初は「ペン部隊」として、その後に「日本文学報国会」として文壇作家がこぞって参加していった。

これにはきっかけがあった。一九三七年十二月十二日の南京陥落を取材し発表した石川達三の『生きてゐる兵隊』である。

石川達三は初代芥川賞受賞作家で、受賞作品はブラジルの生活を描いた「蒼氓」。石川は南京陥落直後に中央公論社特派員として中国大陸に赴き、翌年一月に上海に上陸、鉄道で南京入りした。南京事件に関与した第16師団33連隊に取材し、『生き



若き石川達三

てゐる兵隊』を中央公論に発表。しかし、内容に南京の悲惨な様子も書かれ、出版社の自主規制で四

分の一が伏字・削除されたにもかかわらず、「反軍的内容をもった時局柄不穏当な作品」として、掲載誌は即日発売禁止の処分。執筆者石川、編集者、発行者の三者は新聞紙法第41条（安寧秩序紊乱）の容疑で起訴され、石川は禁固四カ月、執行猶予三年の判決を受けた。

戦後、インタビューで石川は、「入城式におくれて正月、私が南京へ着いたとき、街上は死体累々大変なものだった」と自らが見聞いた虐殺現場の様子を詳細に語っている。戦時中の『生きてゐる兵隊』は戦後、伏字削除部分を復活し『生きてゐる兵隊』として発表した。この一部を紹介する。

・ ・ ・

「彼は物も言わずに右手の短剣を力限りに女の乳房の下に突きたてた。白い肉体はほとんどはね上るようになりと動いた。彼女は短剣に両手ですがりつき呻き苦しんだ。丁度標本にするためにピンで押えつけた蟻螂のようにもがき苦しみながら、



やがて動かなくなつて死んだ。立つて見ていた兵の靴の下にどす黒い血がじつとりと滲んでいた。」

「また武装解除した捕虜を練兵場へあつめて機銃の一斉射撃で葬つた、しまひには弾丸を使うのはもつたないとおつて、揚子江へ長い棧橋を作り、河中へ行くほど低くなるやうにしておいて、この上へ中國人を行列させ、先頭から順々に日本刀で首を切つて河中へつきおとしたり逃げ口をふさがれた黒山のやうな捕虜が戸板や机へつかまつて川を流れて行くのを下流で待ちかまへた駆逐艦が機銃のいつせい掃射で片っぱしから殺害した」

（『生きてゐる兵隊』本文より）

・ ・ ・

この『生きてゐる兵隊』

は密かに中国に持ち出

され数週間後には翻訳本「活着的兵隊」「未死的兵」が発行、英語版など各国版でも出版され、日本への国際的非難が高まるきっかけにもなった。軍は対策を急いだ。

南京事件の翌年、一九三八年八月、内閣情報部の要請で漢口攻略戦への派遣隊に初めてペン部隊を結成、以後も多くの作家が「職域奉公」として従軍し、林芙美子『戦線』（中央公論新社）、丹羽文雄『海戦』などが生まれた。

ペン部隊は四年後、近衛文麿首相官邸にて東條英機同席の下、本格的に文壇を巻き込む組織として「日本文学報国会」が設立され、役員に二二名を選出した。次の作家たちである。

吉川英治・岸田國士・滝井孝作・深田久弥・北村小松・杉山平助・林芙美子・久米正雄・白井喬二・浅野晃・小島政二郎・佐藤惣之助・尾崎士郎・浜本浩・佐藤春夫・菊池寛・川口松太郎・丹羽文雄・吉屋信子・片岡鉄兵・中谷孝雄・富澤有爲男。（つづく）

現代の落首

——大嘗祭考——

(終り)

周立東 著

(承前)

血を受け継ぐ儀式が大嘗祭

古来、「血分けの儀式」というものがあつた。現在でも新興宗教のあるものには、宗祖が信者と性的な交渉をして洗礼を授けるものがある。これは血を受け継ぐきわめて厳粛な儀式である。ようするに大嘗祭は三位一体の神の血を受け継ぐ神聖な血分けの儀式である。その為にベッドが必要不可欠の道具となる。また目に見えない神とベッドインするわけにはいかない。当然女性の存在が必要になる。大嘗祭にもサカツコと呼ばれる女性が重要な役を演ずる。その女性は「未ダ嫁ガズシテ……」とあるように巫女である。ただの巫女ではこの重要な大嘗祭には間に合わないし意味がない。一般には知られていないが、そのサカツコに神が宿ると意味される儀式が、

伊勢神宮近くで大嘗祭の数日前に行われる。巫女に三位一体神が大嘗祭の前に「降臨」し準備が整う。その後、大嘗祭でのベッドインで天皇が三位一体神となる。

「大嘗夜据え膳長すぎて候」

ここまで読むのにおつきあい願った方には、冒頭の一句の意味は氷解するであろう。現天皇は皇太子時代が長かった——。

現代においてはこれら総てが儀式化し、象徴化されているであろうが、「秘事也」ということから、ひよつとしてという疑問と興味が残る。

以上が「宗教的色彩が濃い」という内容である。これに何十億円もの国費が使われ、大嘗宮は儀式が終われば取り壊される。肯定的に考えれば、この大嘗祭は日本古代民俗の生きた例証である。各地の有形無形の民俗風習保存に公費が使われるのに誰も異議をとないだろうから、その延長上で考えれば、この大嘗祭も規模を大幅に縮小し（たとえば大嘗宮

のミニチュアを造り)、国立民俗博物館の主催で行うならば公費の支出も筋が通る。勿論「秘事」も事細かにあきらかにしてもらわねばならない。

なお、冒頭の句の作者名は伏せる。銃弾でお見舞いされてはたまらない。(一) 「川柳人」1990.5

追記…なぜ大嘗宮はすぐ壊されるか? これは古代の「穢れ」と「誕生」についての言い伝えと密接な関連がある。別の機会に再考したい。

【参考資料】「別冊歴史読本 図説天皇の即位礼と大嘗祭」(新人物 往来社) / 「日本古代の王権と祭祀 井上光貞」(東京大学出版会) / 「東アジアにおける儀礼と国家」(共著 学生社) / 「大嘗祭 天皇即位式の構造」吉野裕子(弘文堂) / 「古代天皇家の渡来 崇神・応神・継体の謎を解く」(渡辺光敏 新人物往来社) / 「日本の歴史」(小学館)

シベリア抑留の記録

⑥

「在ソ三年 生と死のドラマ」

故・秋山茂氏の手記

前回までのあらすじ

イルクツク市に着いた。この寒さは日本軍の防寒靴や被服は通用しそうにない。手の先は寒いというより痛い感じである。日本人の捕虜は一般大隊と労働大隊とに分かれ、一般大隊はソ連の一般建設現場や農場などに就労し、労働大隊は比較的戦犯色の濃いと見られソ連極東軍の直轄で、大部分は天幕ぐらしであった。山伐採作業は体力の弱い者から消えて逝くしか道はなかった。

「私は日本に帰れるのか?」

私の三年間に亘るシベリヤ抑留中、山の中での伐採作業中に一度もなかつたけれどもイルクツク郊外で建築場や土工作业している時、三回大隊附のゲペウ将校(中尉)の取り調べがあった。それは峻烈と

いうほどのものでなく、私の思想調査と判断されたので遠慮なく意見を述べると共に思い切つて「私は日本に帰れるのか？ 帰れないのか？」と尋ねたところ彼は「心配するな！ 君は私の責任で帰れるようにするから」と言明して呉れたことが心身共に衰弱していた私をどれほど勇気付けて呉れたことか、「死んでなるか！」と自分自身に云い聞かせながら十一月頃伐採のため又入山した。われわれが「青帽」と呼んだこの取調官は聞く処によれば階級は一中尉であっても中佐の大隊長以上の権限を持っていた。というのは彼はモスクワのクレムリンの直属で極東軍の軍管区司令官に指揮されている大隊長とは格がちがい、それだけに紳士的で敵ながら立派な人物であったように思われた。私に接したゲペウ将校は偶然かも知れないが奉天でもイルクツクでも何れも堪能とまではいかないが日本語を一通り解していたことからしてソ連が対日戦を余程前から準備していたこと

は容易に肯うなずけた

日本人捕虜の大隊にはこの外一名の政治将校（少尉又は中尉）が配属され時々收容所に来て左翼思想のグループ（アクチープと呼んでいた）を指導し一方ハバロフスクで発行されている捕虜向けの「日本新聞」もこれに拍車をかけ吉良特派員などという名前で健筆を振るう者があった。

第五章

抑留二年

日常に事欠かぬ程度の会話マスター

日本人捕虜に地方人からは尊敬の念も

入ソして二年経った（昭和二十二）頃になると日本人の捕虜も随分大きく変わっていた。

まず服装だが旧軍服を着ているのは将校の一部だけで大多数は帽子や靴は勿論服もロシア服、言葉も片言ながら日常会話に事欠かぬ程度にマスターしていた上、この国の風俗や習慣からソ連人気

質や特性というものを^{ちしつ}知悉したため入ソ当初の不安や恐怖感は何時の間にか霧散し中には要領よくソ連兵を操縦するという人たちも現れはじめていたが多くの場合、極端な迎合態度が私には苦々しかった。

私がソ連の地方人と接した感触では一般にソ連兵より寧ろ^{むし}日本人捕虜に対して「尊敬の念を抱いていた」と見られる点が多く、特に若いソ連婦人には日本人に対して憧憬を持つ者が多く、日本人捕虜との間に美しい愛が芽ばえたというところを見聞きしたこともあった。然しソ連側は絶えず捕虜の編成替えを行い決して同一部隊をそのまま永くおくことはなく、離合集散常なしといったところで小隊中隊の移動は可成り激しかった。たった一度だけ私達の分隊十名余りがトラックで約三時間余り走った山あいの甘藍^{※かんらん(葉牡丹)の異名}(カブスタ)畑に連れて行かれ十日ばかり急造の小屋に寝起きしながら甘藍の収穫に従事したことがあったが、毎朝一回地

方人のマツセル(現場監督)が来て所要の指示をした後は日本人だけの生活で伸び伸び出来たが。しかし作業ノルマがあり、見渡しても人家一軒なく細長い山峡の畑は甘藍一色でイルクツクからどの方向にどの位離れた処やら皆目わからなかったが、私達は収穫ノルマだけは共同して毎日完遂していた。

或る日、の正午頃、一台のジープが到着、ソ連兵の下士官一名と兵隊一名が長靴に皮のジャンパーを着た若い女とやって来た。大変美人である彼女はこの女にこ笑いながら、小屋の中で休んでいたわれわれに「今から健康診断をする」と云い、ジャンパーを脱いだのを見れば軍医で階級は中尉であった。入ソ当時の424労働大隊は434労働大隊とかわり、藤原大隊長、仲原中隊長、大石小隊長など皆何れかに代わって行き、在ソ中再び逢うこともなく、分隊員も半数余りは入れ替わっていた。

(つづく)

劇団きづがわ第78回公演

演劇 鶴彬 ― 暁を抱いて

昨年見逃された方へ。感動のドラマ再演
 後援：全日本川柳協会 協賛：あかつき川柳会
 日時：5月11日(土)11時&16時 / 12日(日)14時
 場所：リバティ―おおさかホール

前売：一般・3千円 65歳以上2千500円
 U30歳、障害者2千円(当日500円増し)
 ◆昨年末の公演は3ステージで九五〇人が観劇。連絡をよろしく。

tel/fax：06・6764・7844

編集後記を兼ねて

◆四月馬鹿の日、大騒ぎの改元発表。騒動が続くと選挙がかすむ。これを狙った発表か。次例会の課題に「令」を頂戴。◆札幌の日下さんから投稿があり一杜さんとの繋がりを教えてもらい感謝。御身大切にしてください。◆古参会員の石上さんから電話。「人民川柳」のことで驚きました。以前、岡田一杜さんから聞いていた「人民川柳」を読む機会となりました。鶴彬研究が深まるきっかけになると

4月例会のご案内(毎月第4木曜に変更!)

- ◆例会 4月25日(木) ◆投稿×切：21日(日)
- ◆課題「令」 3句以内 ◆自由吟：5句以内
- ◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論、ご意見などもお寄せ下さい。 ◆会場：金沢市金石町にて
- ◆句報を持参下さい。例会で話し合います。
- ◆投稿 FAX(076) 254-0762
- ◆メールアドレスは下段に。

郵送は
下段住所へ。

感謝しています。◆白眞弓さん、お姉さんを亡くされたことを投句から知りました。選句から外して「粹」で紹介しました。ご冥福をお祈りします。◆金沢はやつと開花宣言(4/1)。まだまだ寒いです。(編集子)

発送に協力いただいています。 ◆《食育のグリーンノート&土の音工房・上村彰》 ◆オカリナ制作

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30 (渡辺 寛)

電話 FAX：076-254-0762 PC-mail：kananabe@popolo.org

携帯：090-9445-1302 携帯 mail：kan-wata@i.softbank.jp

振込先：北國銀行中央市場支店 #191 普通 640「和川柳社」